

令和5年度 学校関係者評価書

鈴鹿市立椿小学校			
評価項目	本年度の活動(具体的な手立て)と指標	学校関係者評価	今後の改善点
学力向上	1 授業改善 ・全国学力学習状況調査、みえスタディ・チェックの分析から学習定着の確認、「授業力UP5」の活用 ・全教員が年間1回の研究授業の実施 2 学力定着 ・既習事項の定着(学びなおし)につながる学習指導 ・「読み上げ計算」・椿タイム(補充学習)年5回 ・TT、複数配置による個別の授業支援 ・日常的な家庭学習の定着「目標時間達成率」80%以上 3 図書指導の充実 ・学校図書館アドバイザー、巡回指導員、ボランティアと連携 ・「読書指導+ブックトーク」年12回 「お話宅配便」年14回 ・子ども主体による読書強化週間の取組 年2回 ・1人当たりの貸出冊数 年55冊 4 特別支援教育 ・通常学級での支援・校内支援会議・個別の支援会議の設定 ・研修会への全職員参加 年1回 (成果○と課題▲) ○上4つの取組を計画通り実施、児童の学力向上につながった。 ・全員が研究授業を実施した。 ・椿タイム5回、「読書指導」等を年22回実施できた。 「お話宅配便」年14回、1人当たりの貸出冊数 年73冊以上 読書強化週間の取組 年2回等々の目標は達成した。 ・児童アンケートで「勉強がよくわかっている」2学期96.2% ・充実した特別支援教育ができた。研修年1回、全員が実施。 ▲研修にかかる負担が重い。 ▲ 家庭学習の目標達成率1学期78.1%、2学期76.4% ▲「読み上げ算」の取組が、学年により意識の差が出ている。	1・授業の雰囲気は非常に良く、先生も児童も頑張っている。 ・研修は可能な限り実施し、負担過重にならないよう注意。 ・研修にかかる負担部分をカットした対応・改善を。 2・学校全体で取り組む姿勢が底上げにつながる。 ・TT体制、複数配置は、大変だが、今後でもできるだけ工夫して進めてほしい。 ・家庭学習については、重要性を発信してほしい。個人差、学年差が大きいと思うが、「自主学習」を推進してほしい。 3・本を読む機会の確保ができています。 ・読書の苦手な子への具体的対策はあるか。	・研修をより計画的に見通しをもって進めることで、負担を減らし、次年度の研究発表に向けて準備を進めていく。 ・自主学習の具体例を示しながら、家庭学習の大切さを繰り返し発信していく。 ・読み上げ算については、学校全体での共有が不足しているため次年度以降の取り組み方を見直していく。 ・読書の苦手な子に寄り添って、読みやすい本を紹介する等、個別に指導していく。
	5 ICT活用指導力の向上 ・ICT支援員との連携月2回、 効果的・日常的なICT活用 ・実践的な研究会実施 年1回 (成果○と課題▲) ○ICT支援員との連携、実践的な研究会が年1回実施できた。 ▲保護者アンケートで「ICTを学習に活用できていない」と思っている方が2学期19.7%と多く、取組が保護者へ伝わっていない。	5・ICT研修会は、勉強の場でもある。今後も継続を。 ・パソコンはこの時代絶対必要なので、落ちこぼれないよう全児童に最低限のことは学ばせること。	・保護者にICTを学習で十分活用していることを、授業参観や学年通信などで、機会を捉えて伝えていく。
長欠減少	6 学校生活についての満足度向上 ・「学校は楽しい」95%以上、不登校0名(欠席30日以上) ・欠席理由のあいまいな児童に対する家庭との連携 7 アンケートによるいじめの把握(年3回) ・組織的な対応と指導 いじめ案件100%解決 ・未然防止啓発活動の充実 (成果○と課題▲) ○児童アンケートで「学校は楽しい」1学期95.4%、2学期94.4% ○アンケート年3回実施、組織的な対応でいじめ案件100%解決 ○欠席理由のあいまいな児童に対して家庭との連携を密にし、家庭訪問や支援会議を組織的に何度も行った。 ▲病気や家の都合も含め、欠席30日を超える児童がいた。	6・家庭との連携を密にしてほしい。子どもの将来にかかわる。 ・不登校、いじめについて全職員が認識してほしい。 ・不登校、いじめ案件には理由を確認して対応できる仕組みづくりをしてほしい。 ・運営協議会にも不登校、いじめの情報が有りありがたかった。	・すでに対応する組織や連携する仕組みはあり、十分に取り組んでいるが、学校が周知不足だったので、今後は、地域にもわかりやすく伝えていきたい。 ・今後も家庭との連携を密にし、組織的に対応するとともに、魅力ある学校づくりに取り組んでいく。
地域連携	8 「すずか夢工房」をはじめ、地域や外部講師の積極的活用 ・各学年 年3回以上 計18回以上 9 外国語学習の成果活用 ・英語表現活動「椿ワールド」・多文化共生教育 ・全学年で英語活動を実施 (低学年EEタイム) 10 チェックリストを活用した保護者啓発 ・「鈴峰中学校区家庭学習強化週間」の取組年3回 ・「学校アンケート」年3回 11 登下校の安全・危機管理 ・見守りボランティア登校指導 12 情報提供の充実 ・学校だより年間30号以上、学校ホームページの適宜更新 ・学校自己評価の提供と学校関係者評価の実施 ・満足度調査(児童、保護者)の結果提供 13 地域ボランティアの効果的活用 ・椿タイム 授業・行事の支援 お話宅配便 (成果○と課題▲) ○すべての項目で目標通り実施できた。地域や外部講師の授業は各学年4回以上、合計31回以上実施できた。 ○情報発信について、保護者アンケート 2学期98.7%が満足。 ○アンケート結果の提供と学校関係者評価の実施 ○満足度調査(児童、保護者)や学校自己評価を情報提供した。 ○登下校の見守り、椿タイム、授業・行事の支援、お話宅配便、地域交流事業等で、地域ボランティアの効果的活用ができた。	9・椿ワールドは、先生の負担は大きいですが、子どもたちには良い経験になるから、継続してほしい。 ・椿ワールドは、全学年が素晴らしい発表であった。 ・子どもたちが英語を使い、演技もうまく、皆で盛り上げているのが良いと思う。 11・防災への意識づけは、今後も訓練を実施してほしい。 ・青パト、見守りボランティアも続けていってほしい。 ・4月下校見守りは、前年に連絡がありボランティアを集めることが容易になった。 ・登下校で鹿や猿と出会ったときは、どう対応するのか。 12・学校だよりは、報告情報で家庭との連携が密になる。地域の人も、子どもたちの事が良くわかる。これからも楽しみにしている。 13・テキストを使った今年度の椿タイムは、やりやすかった。年間を通した同一学年配置もよかった。 ・椿タイム等、地域ボランティアを活用し残業時間短縮につなげてほしい。 ・椿ワールドについて担当の先生と地域Coと事前打ち合わせできたのも、活動を進めるうえで効果的であった。 ・ボランティアの支援にも限度があるので、準備物については再検討してほしい。	・来年度は引き渡しの訓練、防犯、万引き防止等も実施したい。 ・登下校で鹿や猿と出会ったとき、どう対応すれば良いのかを、指導したい。 ・無理のないボランティア活動をしていただくためにも、準備物には気を付けていきたい。
働き方改革	14 定時退校日の設定(月2回) ・その日に退校できる職員の割合80% 15 会議の効率化と時間短縮 ・打ち合わせや職員会議資料のデータ化 ・60分以内に終了する会議の割合70% (成果○と課題▲) ○定時退校日月2回実施、達成率平均76% ○打ち合わせや職員会議資料のデータ化への移行が完了しつつある。効率的な会議進行が定着してきている。 ▲勤務時間外の電話があり、対応してしまうことがある。 ▲年度初めや行事の前には勤務時間が長くなる傾向がある。 ▲60分以内に終了した会議は、全体の69%	15・勤務時間外の電話連絡は、サービス残業ではないか。 ・会議は時間内に終わる計画を立て、各事項に関しては分刻みで進めると良い。	・年度初めや行事の前には勤務時間が長くなる傾向がある。計画的な準備や仕事内容の効率的な引継ぎを行い会議時間短縮に努める。 ・勤務時間外の電話対策を検討していく。